令和７年度　狛江こだま幼稚園関係者評価　報告書

学校法人狛江こだま学園
狛江こだま幼稚園

開催日　令和８年４月３日金曜日
　　○対象者　学園評議員、幼稚園地域関係者、保護者代表、園長、主事、教員代表

1　自己評価について

実施日：令和７年７月 18 日、令和７年 12 月 19 日、令和８年３月 18 日
　＊毎学期末に毎月の反省会と併せて、重点項目についての意見交換会を開催
実施日：令和８年３月 26 日
　＊幼稚園運営に関する事項、幼稚園管理に関する事項、今年度の重点項目に関する事項

2　本園の教育目標

集団生活を経験することで、社会性を身に着けるとともに個性を伸ばし、豊かな情操と健康な身体を育成する。

1. 個性を尊重し、人格形成の根幹ともいうべき健全な心身の育成を目指す。
2. 基本的な生活習慣を身に着け、豊かな情操の芽生えを育み、正しい対人的、社会的な態度の素地を育成する。
3. 生活経験を通し、思考力、自主的態度、自立心などの高揚を図る。

3　評価項目

	評価項目	評価	取り組み状況
1	年間行事を含め、教育課程の継続的見直しと改善を図る 昨年度、教育分野によって改訂た三ヵ年ｶﾘｷｭﾗﾑを検証する	A	園児自らが考えることができる教育環境を創ることに重点を置き、教育目的に向け教職員の言動を含め指導にあたった。 園児の創造性や発展性を求めて、園児の意見聴取を優先して、実践できた。 体育的要素（ｽｲﾐﾝｸﾞと体育あそび）および音楽（鍵盤ﾊｰﾓﾆｶ習得）について、園児の意欲を高める環境つくりに視点を置いて検証した。
2	教育の質向上のために、園内研修を充実させる。 個々の教材研究と日々の活動に対する自己評価をして、園児の感覚を把握する。	A	日頃の教員間における情報交換と園内の事例検証を学年または全教職員で取り組むことで、園の基本姿勢である全教職員で全園児を見守る体制強化に繋がり、教育体制を高め広げている。 園児自らが興味関心を寄せ、意見発表など取り組むことに喜びがもてるように実践してゆく。

			園児の発言や行動をクラス内で評価し合い、また、教師間で共有することで、他事象に反映してゆく。 他園の指導方法や環境について、外部研修を通して教職員で共有することを次年度の課題とする。
3	幼児の教育環境の整備と内容・方法の改善	A	天然芝生の維持管理を年間通して、委託業者の実施計画と併せて、自園にて時期に応じた作業を並行実施していることで、維持拡張できている。 農作物や植物、樹木への興味関心を高める要素として、園内で植え付けから収穫まで体験できるよう計画し、実践できており、実際に食することで新鮮さを実感し、園児の食の幅広がっている。 小動物や水中の生き物について見学やふれあい体験することで、生命あるものおよび食において、「いただく」ことの意義について実感できている。 小動物と魚類を体験参加することで、知識や興味が高まっている。
4	幼児の運動機能・能力を養う。身体を動かすこと、できた喜びを実感する チャレンジ精神の高揚	A	集団あそびや自由あそびを通して、脚力・腕力を自然体で鍛え、思わぬ怪我の発生を回避し、怪我をしない遊び方を常日頃から指導している。 皆で意欲的に挑戦しようとする雰囲気を作り、ﾁｬﾚﾝｼﾞｶｰﾄﾞ（園内作成）を活用して、練習した成果で結果に感動する喜びを味わっている。 外部講師を招聘し、見学体験することで興味関心が高まったことが実感される。
5	特別支援教育のための園内支援体制を整備・強化する	A	必要に応じて人員配置を増員し、園児が安心して生活できるよう配慮している。 また、公的機関の研修会等へ参加し、内容を教員間で共有し、該当園児にあわせて工夫し対応している。 技術および知育を高めるために、個別指導を行い、個人にあった教育的配慮（教材や補助具等）を見出し、実践したことで、集中する時間や技術の高揚が顕著であった。

評価　A…十分に成果があった　B…成果があった　C…少し成果があった　D…成果が無かった

4　総合的な評価結果　　A

学年別カリキュラムに沿った月毎の３学年を通した活動予定表および実施資料から、計画的な教育活動を編成し、全教職員が報告会と資料で把握し実践している。また、週案ベースの書式に、日々の反省欄と達成度（自己評価）欄を設けることと、一週間ごとの技術指導項目（はさみ指導、絵の具指導など）を明記することで、次週および今後の指導方法・内容に反映できている。令和７年度はクラス毎の活動について、別途記録を取り教員間で共有する資料作成を行った。

保護者への周知については、継続的に毎日の活動報告をアプリにて配信し、定期的な通知物で行っている。また、園児の日常生活の様子やイベント等をビデオ配信することで、保護者への活動認知も高くなっている。保護者が参観日とは違う自然の園児たちの様子を見ることで、成長を共有できている。

「教員目線ではなく、園児のから見た活動内容である」という、園の教育方針に合致した生活が送られている。製作や絵画など実在する作品と幼児同士の関係性を観察することで、幼児自らの育みが伺える。今後は、「考える力」と「自分の気持ちを伝える」ことを最優先に教育活動に取り組んでゆく。

幼児教育にとって、日常的に顔と顔を会わせて生活することが望まれるところであり、園児一人一人が安心して生活できる環境つくりを優先に取り組むことが求められる。当園の親身なる対応は魅力的であり、その実践成果は卒園児保護者からのコメントで判断できる。

時期に応じた行事は子ども達にとって、大切な経験であり、その準備や過程とともに発表する喜びは、幼児の学びとして確立している。また、春と秋の「ふれあい動物園」と「ふれあい水族館」は、遠足とともに興味深い行事である。また、一泊保育でのカレーに自分たちが植え付けしたじゃがいもを入れ、食することは一生の思い出の味となるに違いない。

教職員の日頃の熱心な活動と近隣の方々のご理解によって、子ども達のための幼稚園生活が送られている。

5　今後取り組む課題

① 「考える力養う」教育内容及び指導方法と「自分の気持ち及び考えを発言できる」環境設定を教職員一人一人が工夫・探求・実践してゆくことを最重要課題として取り組んでいく。
教師の資質向上は到達点は無いものと思って、常に向上心を持つ。

② 当園の教育目標に沿って、「園児にとっての幼稚園環境」であることを念頭に、園児一人一人を把握した教育内容であること、実践することでその都度、自己および学年としての検証を行い、次に生かしてゆく。

③ 教師一人一人の教材研究および指導方法の探求を充実させ、さらに質の向上を図る。
外部研修を計画的に取り組み、他園の教育状況や教職員の姿勢を学び、自園の教職員と共有してゆくこと。
ゆたかなまナビの活用をさらに深める。（夏期研修、日常オンデマンド研修）

④ 継続的に幼児にとっての教育環境を整備してゆく。
広大な園庭と室内プールの有効的な活用と情緒安定に欠かせない芝生の維持管理について、継続的に検討・実践し検証してゆく。登園の特徴である、園庭と室内プールをさらに活用度を増す。

⑤ 幼児一人ひとりの成長に合わせた教育指導態勢を整え、安心して生活できる教育の場を維持向上してゆく。特に配慮の必要な園児に対して、教育効果を高めるために家庭保護者の理解と教職員の適正配置と指導内容、実践活動について検証し実践してゆく。

個別プログラムをつくり取り組んだことは、保護者から子の成長を実感し、成果として評価をいただいている。さらに、個に合わせたプログラムを実践してゆく。

⑥ 教職員の働き方（勤務時間）が異なるので、勤務体制と勤務時間の改善を協議し、より働きやすい職場となるよう互いに協力し合う。次年度は、全体始礼時刻を変更してゆく。

⑦ 園児数の減少率を抑える経営的努力と、園児数減少による経営的側面からの適正人員と労務管理等に留意する必要がある。

6　卒園児保護者による学校評価の実施（平成21年度より実施）
令和8年3月卒園児保護者に実施（66名）
回収率　84.5%

以上

狛江こだま幼稚園の幼稚園評価について

幼稚園は教育機関として継続的に改善してゆくことが大切であり、そのために自己評価および学校評価を実施します。評価を通して、教育の質の向上を目指し、幼児の健全な発達を支える基盤としてまいります。

○当園での自己評価および学校評価（幼稚園評価）

1. 教育目標・重点目標の確認…年度始め教職員会議
前年度教職員および保護者アンケート結果の公表と意見交換
⇒昨年度評価の確定と今年度の目標設定

2. 自己評価　①学期末に、諸行事諸活動に関する反省と申し送りを会議形式で開催
②年度末に幼稚園運営に関する事項、幼稚園管理に関する事項と今年度の重点項目に関する事項について、アンケート形式で調査・回収・集計・教職員間公表

3. 卒園児保護者へのアンケート調査・集計

4. 幼稚園関係者評価…教育方針および教育内容の報告と教職員および保護者アンケート結果の報告とそれに伴う評価報告を行う
参加者からの意見提言をいただき、今後の課題等の提起する。

学校法人狛江こだま学園
理事長　毛　塚　敬　進